

向日町競輪場
基本構想
(中間案)

(令和5年9月)

京 都 府

向日町競輪場基本構想（中間案）

<u>1 現状・課題</u>	1 頁
(1) 収益面	(1 頁)
(2) 施設・設備面	(1 頁)
(3) サービス面	(2 頁)
<u>2 車券売上・収支の見通し</u>	2 頁
(1) 競輪業界全体	(2 頁)
(2) 向日町競輪場	(3 頁)
<u>3 持続可能な競輪事業に向けた取組</u>	5 頁
(1) 経営改善	(5 頁)
(2) 来場者の確保	(5 頁)
(3) 活性化・イメージアップ	(5 頁)
(4) ギャンブル依存症対策	(5 頁)
<u>4 競輪事業の継続に必要な施設の再整備</u>	7 頁
(1) コンセプト・ゾーニング	(7 頁)
(2) 競輪事業の継続に必要な施設の再整備の考え方	(8 頁)
(3) 整備手法	(9 頁)
(4) 関係法令への適合	(9 頁)
(5) 各種配慮	(9 頁)
<u>5 想定事業費・スケジュール（競輪事業の継続に必要な施設）</u>	10 頁
(1) 想定事業費	(10 頁)
(2) スケジュール	(10 頁)
<u>6 余剰スペースの活用</u>	10 頁
(1) 方向性	(10 頁)
(2) 活用イメージ	(10 頁)
<u>7 参考資料</u>	11 頁
(1) 関係者からの意見	(11 頁)
(2) 向日町競輪場の状況	(12 頁)

向日町競輪場基本構想（中間案）

「向日町競輪場基本構想」は、「向日町競輪事業の今後のあり方に関する基本的な考え方」（令和5年2月）を踏まえ、競輪事業の継続に必要な施設の再整備や余剰スペースの整備を実施することを目的として策定するものである。

1 現状・課題

向日町競輪場の収益面、施設・設備面、サービス面、それぞれに係る現状・課題を、次のとおり整理した。

(1) 収益面

平成25年度と令和4年度を比較すると、業界全体（179%）と比較して、向日町競輪場の車券売上は高い伸び率（198%）となっているが、令和4年度の車券売上は全国平均（258億円）を下回る状況（228億円）にあり、施設の再整備に伴う特別競輪の誘致や魅力向上により車券売上向上の余地があるものと考えられる。

経費については、構造的にその多くが競輪業界で統一されており、経営努力による節減は難しいが、施設・機能の集約化により、一定の節減を見込むことができる。

(2) 施設・設備面

耐震基準を満たさない投票所や大規模改修が昭和61年度以降行われていない競走路（バンク）など、施設の老朽化の程度は他の競輪場と比較しても著しく、バリアフリー対応や空調設備の整備が十分できていないなど、観戦環境の整備も不十分である。

また、観戦・投票施設は、来場者数に対して過大な規模となっている。

なお、開催本部・審判施設などは、個別には妥当な規模である。

<参考1：観覧席数と来場者数の状況>

観覧席数：約2,700席（閉鎖中のものを除く）

最大来場者数※：（本場開催時）2,604人、（場外販売時）3,825人

※ 過去5年間（平成30年度～令和4年度）

<参考2：競輪業界を取り巻く様々な環境の変化>

長きにわたる売上低迷により、施行者において施設改修等のための必要資金を十分に確保することができず、競輪場の中には老朽化の進む場が存在していたが、近年の売上増加を背景に、競輪場の大規模な改修の動きがある。

近年はインターネットによる車券販売の普及により、本場の来場者数は減少傾向にあることから、来場者を増やすために競輪場のイメージアップが重要。さらに、レース非開催日において、競輪場を利用したサイクルイベントの開催等の活用方法を模索する動きが出始めている。

また、競輪場内にある選手宿舎は主に4人部屋であり、コロナ禍では選手隔離のために選手に分宿させる必要があった。女子選手増加等への対応についても検討する必要がある。

※「競輪・オートレース業界の現状と課題」（第18回産業構造審議会製造産業分科会車両競技小委員会資料）から引用

(3) サービス面

観戦施設について、ゴール前は全て屋外席となっている。また、屋内席は、本場での記念競輪開催時のみ開設されている。

屋外の観戦エリアや投票施設が多く、映像提供・空調等の整備も不十分で、駐車場は隔地にあるなど、来場者にとって利便性が低い状況となっている。

また、場内案内について、案内図に閉鎖箇所などの明示がなく、動線の説明もないなど、新規来場者に対するサポートが不十分な状況となっている。

2 車券売上・収支の見通し

競輪業界全体の全国的な傾向等を分析した上で、向日町競輪場の今後10年間にける車券売上及び収支について、次のとおり一定の見通しを立てた。

(1) 競輪業界全体

ア 車券売上・収支の動向・推移

コロナ禍における巣ごもり需要や、モーニング競輪、ナイター競輪、ミッドナイト競輪など従前は開催していなかった時間帯でのレースの開催、好きな場所で好きな時間帯にインターネットで車券が購入できるような販売方法の工夫などにより、近年、車券売上及び収支は大幅に改善した。競輪の「中期基本方針」（令和3年3月策定）における目標を前倒しで達成したため、目標の見直しも実施されている。

インターネット投票による車券売上が増加する一方で、本場での車券売上（当該競輪場で開催される競輪を当該競輪場で販売した車券売上）は低位で推移しており、平成16年度は車券売上に占める比率が39%あったが、近年は1%程度となっている。同様に、専用場外での車券売上（競輪が開催されている競輪場以外で車券を販売するための施設で販売した車券売上）も低位で推移している。

<参考：競輪中期基本方針における目標（令和3年3月策定。令和5年5月変更）>

【新たな目標額（令和7年度）】

売上目標 1. 25兆円（従前の目標額： 1兆円）

施行者収益目標 450億円（従前の目標額：230億円）

【車券売上】

令和4年度 10,908億円 令和元年度 6,605億円

【施行者（競輪施行自治体）収益（全国）】 ※（ ）内は、収益率

令和4年度 396億円（3.63%）

令和元年度 153億円（2.31%）

イ 今後の車券売上の見通し

中長期的には人口減少の影響を大きく受けるものの、今後10年間程度はインターネット投票による車券売上に下支えされることで、車券売上の大幅な減少はないものと予測される。

<考え方>

全体の車券売上の80%近くを占めるインターネット投票による車券売上の伸び率は、令和5年度においても110%台を維持しており、民間ポータルサイト各社の車券の販売促進の取組が継続することで、微増傾向が当面は維持されると考えられる。

また、民間ポータルサイトでの車券の購入者は、30～40代の比率が高く、20代の新たな顧客層の流入も多くみられることから、これらの比較的若い年齢層が、今後の車券売上を下支えすると考えられる。

(2) 向日町競輪場

ア 車券売上・収支の動向・推移

向日町競輪場の車券売上は、平成30年度のミッドナイト競輪の開催以降、コロナ禍における巣ごもり需要の影響もあり、過去10年間で2倍に伸長している。令和3年度及び令和4年度ともに230億円近い車券売上を達成し、令和4年度車券売上の平成25年度対比は198%と、競輪業界全体の伸び率179%と比較して、高い伸び率となっている。

チャンネル別の車券売上比率については、コロナ禍における巣ごもり需要等により、令和2年度以降インターネット投票による車券売上が急増し、令和4年度時点では78.7%と、競輪業界全体(78.3%)とほぼ同じ割合となっている。

一方で、本場での車券売上は、全国的な傾向と同様、平成16年度の39%から、近年は1%程度と大きく減少している。

収支は、平成23年度以降黒字で推移している。黒字の規模は、包括民間委託を開始した平成29年度以降、2～3億円で推移していたが、ミッドナイト競輪の開催など更なる経営改善の取組を進めたことに加え、コロナ禍における巣ごもり需要の影響も加わり、令和3年度は9.4億円、令和4年度は5.7億円と大幅に改善している。

イ 来場者の推移

昭和46年度の約97万人をピークに減少に転じ、受託場外(他の競輪場で開催するレースの車券を、場外車券売場として向日町競輪場で販売)の販売日数の増加とともに、平成15年度から再び増加に転じたものの、平成17年度に約74万人を記録した以降は減少に転じている。

ウ 今後の見通し

(7) 車券売上

競輪業界全体の動向に加え、施設の再整備に伴う、イメージアップ、快適な観戦・投票環境の提供、特別競輪の誘致や余剰スペースの整備による交流・賑わいの創出などによる、車券売上増への貢献・可能性も考慮する必要がある。

<考え方>

向日町競輪場の車券売上の今後の見通しについては、競輪業界全体の動向に加え、老朽化した施設を再整備することにより、新規来場者へのイメージアップを図るとともに、既存来場者に対して快適な観戦・投票環境を提供することが可能となることにより、一定の車券売上の増加を見込むことができる。

加えて、特別競輪の誘致もしやすくなるとともに、余剰スペースの整備による交流・賑わいの創出により、競輪以外の目的の来場者を新たな顧客として取り入れ、購入層の拡大を図ることで、車券売上増に一定寄与することも考えられる。

一方、コロナ禍における巣ごもり需要が落ち着いてきていることや、一部チャンネルに関しては人口減少の影響を受け始めていることなどのマイナスの要素も加味する必要がある。

(イ) 収支

a 当面の見通し

インターネット投票による車券売上の比率が増加したことにより、来場者数の減少や無観客開催でも収益化が可能な仕組みに変容しており、今後、これまでの傾向が継続し、来場者数の減少が続いたとしても、一定の収益が維持されるものと考えられる。

施設の再整備によって競輪開催を休止する期間中は、収支への影響を抑制するため、他の競輪場の借上開催等を行うことから、これらに伴う経費増による収支の下振れが見込まれるものの、施設の再整備後は施設・機能の集約化や運営の効率化による支出の最適化を図ることで、長期的には収益の確保が可能になる見込みである。

b 長期的な見通し

人口減少の影響などにより、車券売上自体の減少が予測されることに鑑みると、運営の効率化などによる具体的な支出削減の可能性を民間事業者からの提案などで求めることが必要と考えられる。

<参考 1：車券売上額の状況（全国、向日町）> ※（ ）は、ピーク時を100としたもの

	車券売上額（全国）		車券売上額（向日町）	
直近	令和4年度	10,908億円（56）	令和4年度	228億円（57）
ピーク	平成3年度	19,553億円（100）	昭和62年度	403億円（100）
底	平成25年度	6,063億円（31）	平成24年度	104億円（26）

<参考 2：開催区別の車券売上比率（全国）>

平成16年度：昼間94%、ナイター 6%

令和4年度：昼間44%、ナイター25%、ミッドナイト25%、モーニング6%

<参考 3：チャンネル別の車券売上比率（全国）>

平成16年度：本場27%、場間場外41%、専用場外19%、CTC13%

令和4年度：本場 1%、場間場外12%、専用場外10%、CTC14%、

民間ポータルサイト63%

※場間場外：他の競輪場で開催される競輪の競輪場で販売した車券売上

※CTC：全輪協のシステム（電話投票及びインターネット投票）

3 持続可能な競輪事業に向けた取組

向日町競輪場における競輪事業が持続可能なものとなるよう、経営改善、来場者確保、活性化・イメージアップ、ギャンブル依存症対策などのために必要となる取組を実施する。

(1) 経営改善

収入の確保及び経費の見直しを図るため、次のような事項について検討し、取組を進める。

<収入の確保>

- ・ 開催時間帯の見直し（モーニング競輪・ナイター競輪の検討）
- ・ 特別競輪の誘致
- ・ ネーミングライツの導入

<経費の見直し>

- ・ 施設・機能の集約化
- ・ 場外車券販売時の対応の見直し
- ・ キャッシュレス化

(2) 来場者の確保

来場者の確保を図るため、次のような事項について検討し、取組を進める。

- ・ 入場料の無料化（現状：本場開催時 50円）
- ・ サービスの向上（アクセス、各種案内、観戦・投票環境 など）
- ・ 飲食店の充実（家族連れや若者を意識した外観・内装・メニュー、カフェ・キッチンカーの誘致 など）
- ・ 非開催時の有効活用（地域イベントの開催 など）
- ・ 観光資源化（競輪体験ツアーの企画 など）

(3) 活性化・イメージアップ

競輪事業の活性化及びイメージアップを図るため、次のような事項について検討し、取組を進める。

- ・ 地元選手の紹介（紹介パネルの整備、関連イベントの開催 など）
- ・ サイクルスポーツの振興（サイクリストの拠点、聖地化 など）
- ・ 地域・企業との連携（協賛レースの開催 など）
- ・ 自転車関連イベントの開催（バンクリーグの開催 など）
- ・ 自転車関連事業者の出店（サイクルグッズの販売 など）

また、競輪業界の取組として、新規ファンの獲得に向け、アニメを活用した魅力発信や新たなロゴの展開や新CMの制作・放映などによるガールズ競輪のブランディング強化などが行われている。

(4) ギャンブル依存症対策

公営競技（競馬、競輪・オートレース、モーターボート競走）においては、公営

競技間の連携を図り、広告宣伝の抑制、普及啓発の推進、アクセス制限の強化等のギャンブル依存症対策を、公営競技業界を挙げて実施している。

また、競輪業界においては、ギャンブル等依存症対策推進基本計画（令和4年3月25日閣議決定）に基づき、ギャンブル依存症対策を実施している。

<参考：令和4年度に実施された競輪業界の主な取組>

※ 「競輪・オートレース業界の現状と課題」（第18回産業構造審議会製造産業分科会車両競技小委員会（令和5年5月24日開催）資料）から引用

- 購入限度額システムの導入
 - ・ 利用者本人の申請に基づき、インターネットによる車券等の購入の上限額を設定し、特定期間内において設定上限額を超える車券等の購入ができなくなるシステム
 - ・ 1日当たりの上限額を100円単位で設定が可能。一度設定すると180日間は解除できない。
 - ・ 競輪業界においては、令和4年度内に、公式サイト及び全ての民間ポータルサイトにおいて、購入限度額システムの導入が完了
- 競輪の広告・宣伝指針の策定
 - ・ 射幸心をあおる内容(※)は使用しないこと等を規定
(※当たりやすい、儲かる等を過度に強調する表現等)
 - ・ 各媒体における留意事項
媒体(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ポスター、インターネット等)ごとに注意事項の表示に際して留意すべき点(※)を規定
(※注意事項は明瞭に視認できる大きさで表示する等)
- ギャンブル依存症対策研修会の開催
 - ・ ギャンブル依存症の知識の向上や理解を深めるため、定期的に研修を実施
 - ・ 直近では令和5年2月に開催し、施行者のほか、場内関係者、場外車券売場、民間ポータルサイト、包括委託業者等の関係者が参加した。
- 競輪場等におけるATMの撤去
 - ・ 競輪場及び場外車券売場における全てのATMを撤去

4 競輪事業の継続に必要な施設の再整備

(1) コンセプト・ゾーニング

ア コンセプト

- ・ 競輪開催の場としての機能だけでなく、レジャーや憩いの場、スポーツ活動・防災の拠点などの多目的・複合的な機能を併せ持った、地域の交流・賑わいの拠点へと転換する。
- ・ 競輪・自転車競技関係者のみならず、府民に広く親しまれるような存在に変革する。

イ ゾーニング

競輪場敷地全体を、「エントランスゾーン」、「管理・運営ゾーン」、「観戦・投票ゾーン」及び「交流・賑わいゾーン」にゾーニングをした上で、各ゾーンにまたがって点在する老朽化が著しい施設は除却し、競輪場敷地内の全面的な再整備を実施する。

バンクやスタンドなど競輪事業の継続に必要な施設・機能については、今後の車券売上・来場者数の見通しや他の競輪場の事例等を踏まえ、集約化を行った上で、「管理・運営ゾーン」及び「観戦・投票ゾーン」に集中的に配置する。

競輪事業の継続に必要な施設の配置を行わない余剰スペースについては、「交流・賑わいゾーン」として整備を実施する。

エントランス		各ゾーンへの玄関口。来場者を迎え入れるためのサービスを提供
競輪開催	管理・運営	競輪運営のために、施行者（京都府）、選手、競技関係者にとって必要となる場所
	観戦・投票	来場者がレース観戦を楽しむための場所。来場者へ快適な観戦・投票環境を提供
余剰スペース	交流・賑わい	レジャーや憩いの場、スポーツ活動・防災の拠点などの多目的・複合的な機能を持った、交流・賑わいの拠点となるゾーン

<参考：向日町競輪場の整備に関する関係者の意見>

○ 向日町競輪事業外部有識者会議

競輪開催	見る方（来場者）にもする方（選手・競技関係者）にも快適な施設
敷地全体	競輪場自体の魅力向上 （様々なスポーツが楽しめる施設、遊具・芝生広場の整備など） 周囲の囲いを撤去した上でのオープンスペース化 緑地の確保、住宅地との緩衝帯（バッファゾーン）の確保 災害時の対応（指定緊急避難場所・指定避難所）

○ 民間事業者

来場者数や来場者による車券売上（車券売上の1%）を踏まえると、大規模なレースの誘致を目指していないのであれば、かなりの施設・機能の集約化は可能ではないか。施設整備は、可能な限りレース開催や場外販売を維持しながら行うことが好ましく、また、民間で実施した方が安価であり、工期も短くなるのではないか。

(2) 競輪事業の継続に必要な施設の再整備の考え方

ア 競輪事業の継続に必要な施設の再整備

インターネット投票による車券売上の増加やミッドナイト競輪(無観客で開催)の開催による来場者の減少、開催時間帯や車券販売方法の工夫といった事業のモデルチェンジによる車券売上・収益の大幅な改善など、競輪事業を取り巻く環境が大きく変化していることを勘案しつつ、車券売上・来場者数の見通しを踏まえ、競輪事業の継続に必要な施設の再整備を実施する。

具体的には、来場者に対するサービスを向上させるとともに、安定して収益を出せる持続可能な競輪事業とするため、来場者数に対応した施設・機能への集約化、機能の向上及び運営の効率化を行うとともに、競技環境の改善を図る。

各施設の再整備の方向性は下表のとおりである。

区分	対象施設・機能	方向性
過大(低利用)施設	観戦・投票施設 (中央スタンド等)	施設・機能の集約化(配置などの工夫) 機能の向上(来場者の観戦・投票環境の改善) 運営の効率化(運営コストの削減)
老朽化施設 (必要施設)	バンク、照明施設 選手宿舎	競技環境の改善(スポーツ性の向上、感染症対策、 女子選手への対応)
	集計センター 事務所、審判施設等	運営の効率化(配置等の工夫。現状は妥当な規模)
老朽化施設 (不要施設)	耐震基準を満たさない施設(第4投票所等)	解体・除却(安心・安全の確保)
その他施設	外向車券投票所	機能の向上、運営の効率化(投票環境の改善、開放エリアの限定による運営コスト削減)
	選手管理センター	現状維持(将来的に改修)
	入場門、囲い、駐車場 など	交流・賑わいの拠点となる施設への転換 (囲いの撤去、緑地帯の整備、動線の整理など)

イ 主要施設の再整備

(ア) バンク

定期的に改修工事を行っているものの、大規模な改修は昭和61年を最後に35年が経過しており、外周部にはひび割れも見受けられる。再整備することにより、競走の公正安全、選手が安心して走ることのできる環境の確保及びスポーツ性の向上を図る。

(イ) 選手宿舎

老朽化が進むとともに、相部屋(4人部屋)であることから感染症対策も対応できておらず、浴室が兼用となっていることなど女子選手への対応もできていない。再整備することにより、競技環境の改善を図る。

(ウ) スタンド(観戦・投票施設)

インターネット投票による車券売上の増加やミッドナイト競輪(無観客で開催)

の開催による来場者数の減少を踏まえ、過大となっている。施設・機能を集約化の上、再整備することにより、来場者に対して、快適な観戦・投票環境を提供するとともに、運営コストの削減を図る。

(I) 外向車券投票所

他の競輪場で開催されている競輪の車券販売のための施設を、スタンドとは別に新たに整備することにより、場外販売時の開放エリアを限定することで、運営コストの削減を図る。

(3) 整備手法

近年、資金調達能力や豊富な経営ノウハウなど民間事業者の強みを活かして、施設・機能の集約化の上、全面的な施設整備を実施している競輪場の事例がある。

例えば、広島競輪場においては、資金調達能力や豊富な経営ノウハウなど民間事業者の強みを活かすため、民間事業者が施設の再整備、維持管理及び運営を一体的に行う「競輪場再整備・運営事業」が実施されている。

<第 18 回産業構造審議会 製造産業分科会車両競技小委員会（2023 年 5 月 24 日）資料>

民間企業の資金による大規模改修事例

- ・ 新しい競輪場をプロデュースする取組として、民間企業が自己資金で競輪場を大規模改修する事例がある。
- ・ 民間企業は投資を回収する必要があることから、競輪場運営の委託契約が 20～30 年など長期に及ぶケースも存在。
- ・ 長期の民間委託は施行者が競輪場の管理・運営に直接関与しづらくなる側面もあり、施行者ごとの実情に応じた経営判断が重要となる。

(4) 関係法令への適合

再整備する施設は、自転車競技法や建築基準法、向日市まちづくり条例その他関係法令等に適合するものとする。

<参考 都市計画>

都市計画近隣商業地域（建ぺい率 80%、容積率 200%）

特別用途地区（娯楽・レクリエーション地区）

(5) 各種配慮

再整備する施設は、来場者が安全かつ快適に利用できるよう、ユニバーサルデザインに十分配慮するとともに、緑地の確保や隣接する住宅地への緩衝帯の設定など、景観・環境面にも十分配慮する。

また、向日町競輪場は、指定緊急避難場所及び指定避難所に指定されており、備蓄倉庫が設けられていることから、引き続き防災面でも配慮する。

併せて、引き続き地域住民に親しまれる施設となるよう、再整備に当たっては地域住民の利用にも十分配慮する。

5 想定事業費・スケジュール（競輪事業の継続に必要な施設）

(1) 想定事業費

バンク・スタンドなど、必要な施設の規模・機能を精査の上、想定事業費を算出することとする。

なお、再整備に当たっては、施設整備基金及び繰越金を可能な限り活用するとともに、資金調達能力や豊富な経営ノウハウなど民間事業者の強みの活用も想定する。

(2) スケジュール

車券売上、収支の大幅な改善を踏まえ、可能な限り早期の整備着手・完成を検討する。

6 余剰スペースの活用

(1) 方向性

余剰スペースは、「交流・賑わいゾーン」として整備を実施する。

レジャーや憩いの場、スポーツ活動・防災の拠点などの多目的・複合的な機能を充実させる。

(2) 活用イメージ

競輪施設との相乗効果、賑わいの創出、府内のスポーツ施設の状況などを踏まえ、屋内スポーツ施設としての活用を検討する。

なお、交流・賑わいの創出につながるよう、来場者やサービスの動線を確保する。

また、緑地等の確保、防災機能、地域住民の利用などにも十分配慮する。

<参考：関係者の意見>

(向日町競輪事業外部有識者会議)

- ・ 立地、アクセス、一定の面積、周辺環境等の好条件を活かした様々な選択肢の提示（日常的利用、イベント利用、様々なスポーツが楽しめる施設や芝生広場等オープンスペースの整備など）による、競輪場自体及びエリア全体の魅力向上を図るべきではないか。
- ・ 車券売上はインターネット投票が中心で競輪場への集客は見込めないことから、集客が期待できる施設が併設できれば、地域の賑わいにつながり、競輪が開催されているのを見てみようという興味を持ってもらえるきっかけにもなり、競輪場全体として相乗効果も生まれるのではないか。
- ・ 街中なので、災害時の避難場所や全天候型の屋内スポーツ施設を競輪施設の横に整備するという発想は面白いのではないか。

(民間事業者)

- ・ 競輪事業部分と余剰スペースは、物理的に仕切らないなど回遊性を高められれば、様々なコラボレーションも期待できるのではないか。

(スポーツ施設あり方懇話会)

- ・ アリーナ整備で、スポーツだけでなく複合施設による周辺の活性化が大事。向日町では競輪場の再整備も含め、敷地全体で地域活性化を目指せるのではないか。
- ・ 沖縄アリーナが会場となったバスケットボールW杯は、熱狂に包まれた。京都にもアリーナができれば、子どもたちの夢や憧れの的になるのではないか。

7 参考資料

(1) 関係者からの意見

基本構想の策定に当たっては、関係者から幅広く意見を聴取することとしており、関係者の主な意見は次のとおりである。

区 分	内 容 (項 目)
策 定 プ ロ セ ス	<ul style="list-style-type: none"> 関係者※の意見聴取（検討プロセスへの参画）、意見反映 ※ 地域住民、競輪・自転車競技関係者、観戦者、民間事業者など 大きなコンセプトの設定・共有
ソ フ ト 面 の 取 組	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な収支分析 非開催時の地元利用（日常的利用、イベントなど） キャッシュレス化（運営の効率化、イメージアップなど） 開催時間帯の見直し（モーニング競輪など） 競輪の魅力発信の強化（アニメの発信力の活用など） 入場料の見直し（廃止） 収入の確保（自転車関連業者の出店など） 飲食サービスの充実 自転車競技の振興 ギャンブル依存症対策 民間ノウハウの活用（民間事業者のビジネス面のメリットなど）
ハ ー ド 面 の 取 組 (競 輪 施 設)	<ul style="list-style-type: none"> 見る方にもする方にも快適な施設 スポーツ性の向上（バンクへの屋根の設置、バンク周長の変更など） 車券売上や収支の大幅な改善を踏まえた、早期整備 施設整備資金の確保 老朽化施設への対応 選手宿舎の活用（災害時対応、宿泊機能など）
余 剰 ス ペ ー ス の 活 用	<ul style="list-style-type: none"> 芝生を張るなど、市民が憩え、高齢者が安心して散歩できる場に 娯楽スポーツエリアとしての再生 （大規模アリーナ施設、自転車をテーマにしたスポーツ・遊戯施設） アーバンスポーツ施設の設置 グッズショップ、オープンカフェ、市の展示ブースの設置 屋外ステージ、屋根付きの屋外スペースの設置（イベント活用）
敷 地 全 体	<ul style="list-style-type: none"> 市民にとって利用したくなる、誇りの持てる向日市のシンボルとなるような施設 競輪場自体の魅力向上（様々なスポーツが楽しめる施設、遊具・芝生広場等オープンスペースの整備など） エリア全体の魅力向上（立地、アクセス、一定面積、周辺環境を踏まえた施設整備・活用（日常的利用、イベント常設化など）） ゾーニング（多目的広場、自転車競技関連ゾーン） 周囲の囲いを撤去した上でのオープンスペース化 緑地の確保、良好な景観の形成 隣接住宅地への配慮（日照、騒音、ごみ、交通、防犯、緩衝帯の確保） 周辺環境の整備（周辺道路整備（交通渋滞・交通安全対策）、散歩道の整備） 駐車場の確保 向日町会館（住民利用施設）の建替整備 BMXパークのアーバンスポーツ施設への拡充

(2) 向日町競輪場の状況

1 車券売上等の状況（令和4年度）

車券売上額	227.3億円（全国29位）
（参考）	234.1億円（全国19位）※令和3年度
インターネット車券売上額	78.7%（全国22位）
収益額	9.4億円（全国14位）※令和3年度
収益率	4.02%（全国18位）※令和3年度
一般会計繰出金累計額	17億円（全国6位）※平成28年度～令和3年度

2 運営・体制及び開催区分（令和5年度）

包括民間委託	実施（平成29年度～）
モーニング競輪	未実施（全国28場で実施）
ナイター競輪	未実施（全国26場で実施）
ミッドナイト競輪	実施（全国28場で実施）
年間来場者数	32,139人（全国22位）※令和4年度
購入単価	8,500円（全国20位）※令和4年度
施設整備基金	令和4年度設置（全国36場で設置）

※ 開催区分

モーニング競輪	9時頃～14時30分頃
昼間	11時頃～16時30分頃
ナイター競輪	15時30分頃～20時30分頃
ミッドナイト競輪	21時頃～23時30分頃。無観客

3 立地・敷地の状況

敷地面積	57,989.56㎡（全国17位）
行政財産（全国）	普通財産：29、行政財産：10、混在：2、民間：2）
都市計画	近隣商業地域（建ぺい率：80%、容積率：200%） 特別用途地区（娯楽・レクリエーション地区）
土地形状	場内全体が西から東に傾斜。敷地の有効活用には整地が必要

4 施設の状況

バンク	昭和61年度以降、大規模改修未実施 （平成以降に大規模改修が未実施の競輪場は、向日町以外は2場のみ）
投票所	第2・4・5投票所は閉鎖中
場外・サテライト車券売場	未設置（全国30場で設置）
前売・早朝投票所	未設置（全国34場で設置）
駐車場	大部分が敷地外で、分散しており、利便性に課題
選手宿舎	平成4年建築で、全国で11番目に古い

向日町競輪場基本構想（中間案）

【資料編】

目次（資料編）

- | | |
|---------------|-------|
| 1 現状・課題 | 2～4頁 |
| 2 車券売上・収支の見通し | 5～13頁 |

1-1 各施設の現状 (位置)



2

1-2 各施設の現状 (写真: 全体)



3

1-3 各施設の現状 (写真: 個別)



競走路(バンク)



第5・第4スタンド 中央スタンド 観戦スタンド



観戦スタンド・第3投票所



観戦スタンド・特別観覧席



観戦スタンド・2階



東入場門



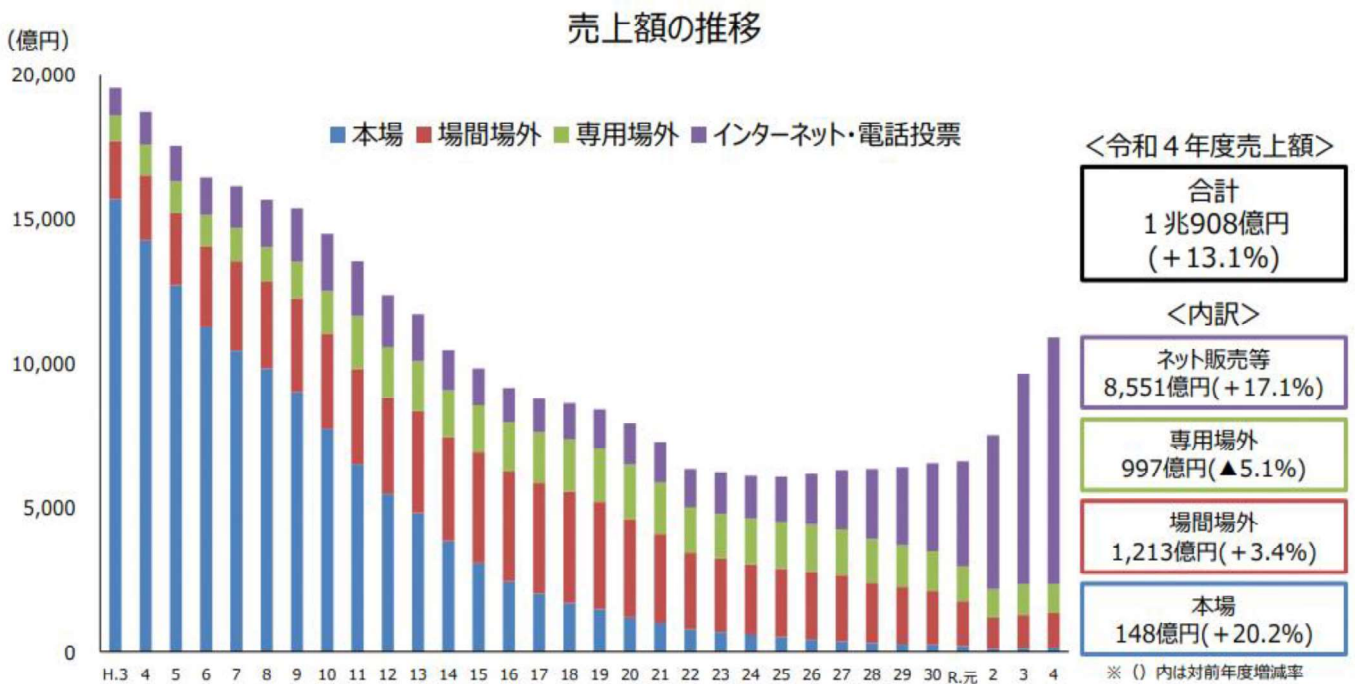
西入場門



向日町会館

4

2-1 車券売上額の推移 (競輪業界全体)



出所: 第18回 産業構造審議会 製造産業分科会 車両競技小委員会(2023年5月24日)資料

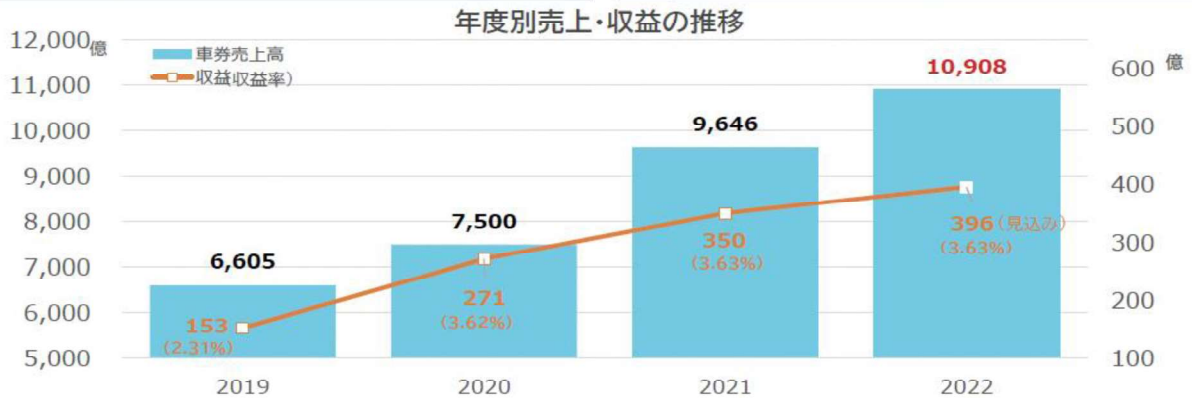
2-2 車券売上・収益の目標達成状況（競輪業界全体）

2022年度の売上は**1兆908億円**、2021年度の施行者収益は**350億円**であり、目標をそれぞれ前倒しで達成した。

競輪中期基本方針における目標(2021年3月25日策定)

売上目標1兆円、施行者収益目標230億円

節数等	2021年度:831節(2,486日) →	2022年度:895節(2,690日)
売上	2022年度売上 1兆908億円	収益 2022年度収益見込み 396億円



出所: 第18回 産業構造審議会 製造産業分科会車両競技小委員会(2023年5月24日)資料

6

2-3 令和4年度年代別車券売上（民間ポータルサイト）

年代	購入額(億)	シェア	前年比
20代	1152.7	16.7%	137.1%
30代	1984.8	28.7%	126.7%
40代	1962.2	28.4%	118.6%
50代	1168.2	16.9%	123.3%
60代以上	649.4	9.4%	109.3%

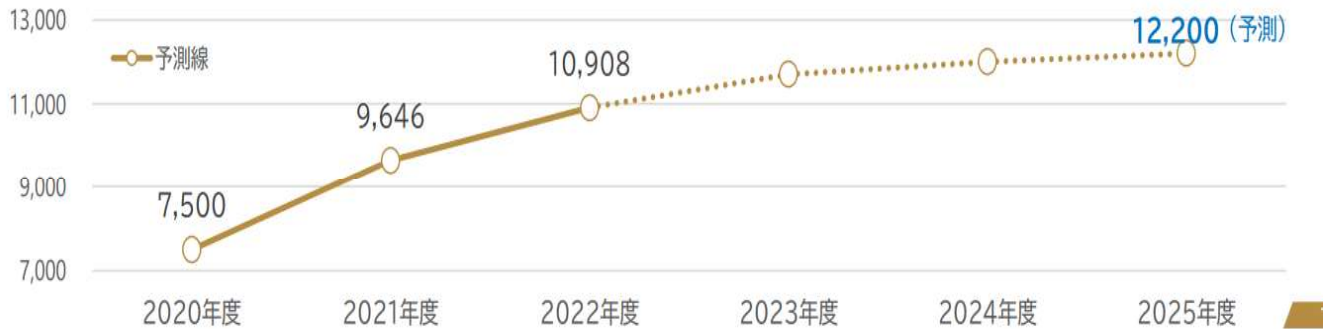
出所: 第18回 産業構造審議会 製造産業分科会車両競技小委員会(2023年5月24日)資料

7

2-4 令和7年度までの車券売上予測（競輪業界全体）

■ 2025年度売上予測

2022年度下期における1日平均売上成長率(約106%)を基準とし、2025年度まで対前年売上成長率が漸減すると予測。
2025年度は1.22兆円程度に到達する見込み。



出所：第18回 産業構造審議会 製造産業分科会車両競技小委員会(2023年5月24日)資料

8

2-5 車券売上・収益の新たな目標（競輪業界全体）

競輪中期基本方針
新たな目標額

売上目標 **1.25兆円**

2025年度売上予測をもとに、新たな課題への取組みによる上積みを考慮し、新たな目標額を設定した。

施行者収益目標 **450億円**

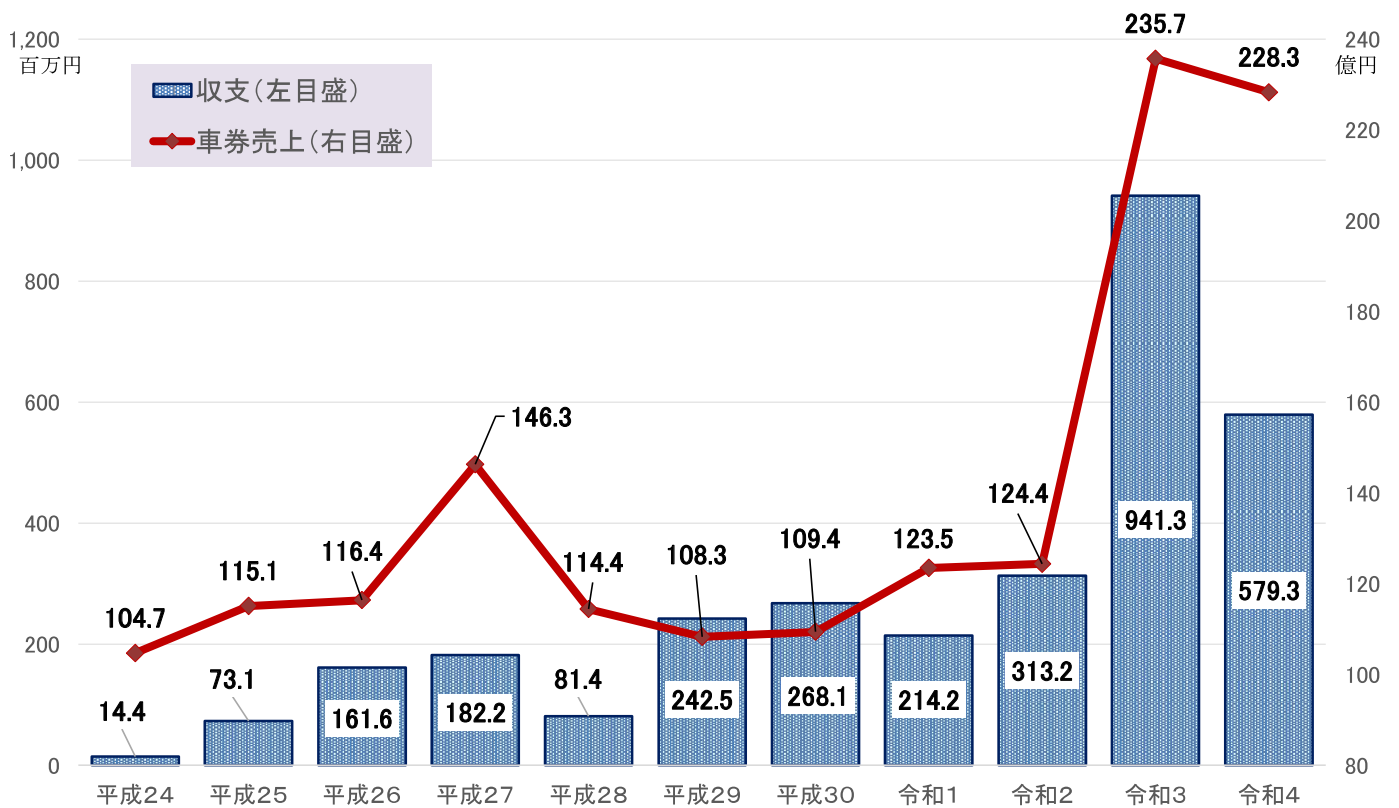
2021年度の旅行者収益率を踏まえ、売上1.25兆円を達成した場合の収益を試算し、新たな目標額を設定した。



出所：第18回 産業構造審議会 製造産業分科会車両競技小委員会(2023年5月24日)資料

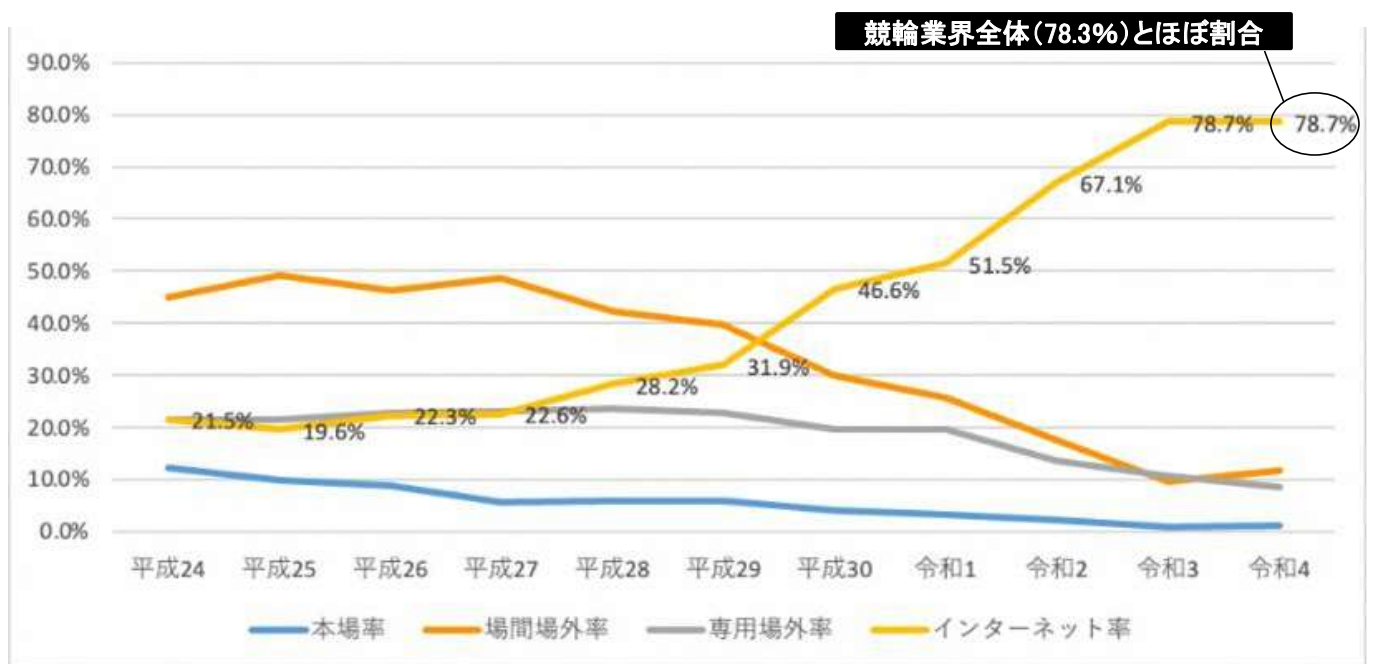
9

2-6 車券売上・収支の推移 (向日町競輪場)



出所: 京都府作成 10

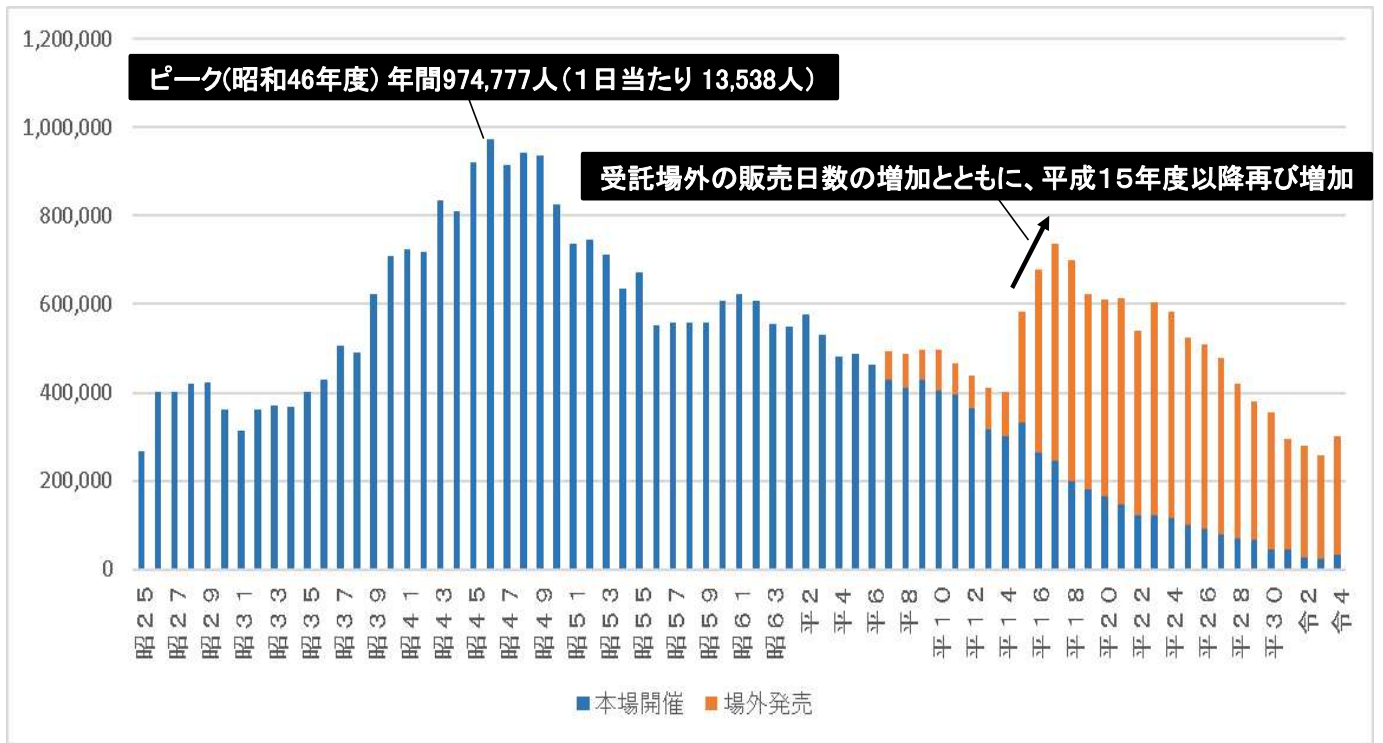
2-7 チャンネル別車券売上比率の推移 (向日町競輪場)



出所: 競輪インフォメーションサーチシステム(KISS)より京都府作成

(参考) 本場: 向日町競輪場で開催される競輪を向日町競輪場で販売
 場間場外: 向日町競輪場で開催される競輪を他の競輪場で販売
 専用場外: 競輪が開催されている競輪場以外で車券を販売するための施設で販売

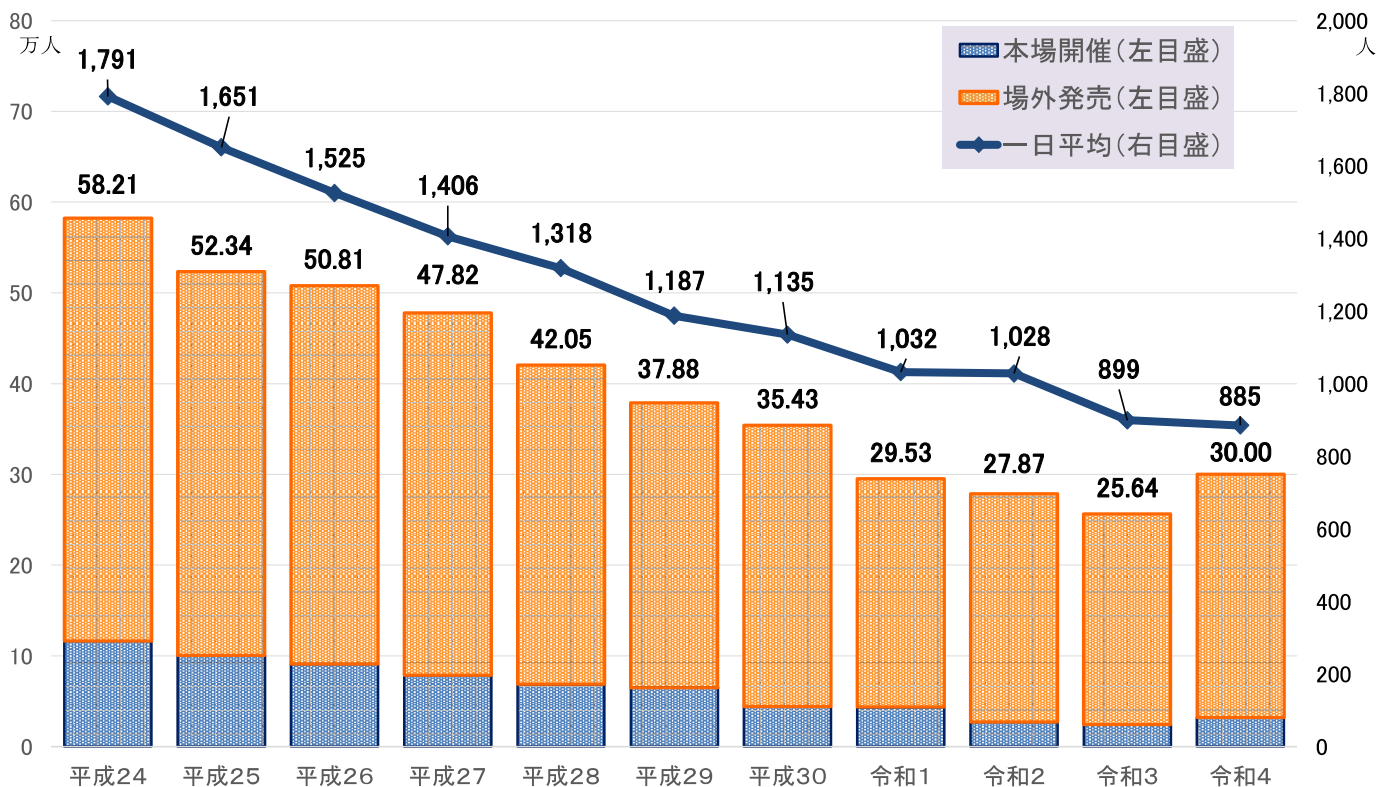
2-8 来場者数の推移（開設後～）（向日町競輪場）



出所: 京都府作成

12

2-9 来場者数の推移（平成24年度～）（向日町競輪場）



出所: 京都府作成

13